

日 時：平成25年8月21日（水）14：00～17：00			会 場：地盤工学会地階A会議室		
委員長 橋 伸也	○	幹事長 楡井 一昭	○	幹 事 渡邊 康司	○
幹 事 杉本 映湖	○	前幹事 仲山 貴司	○	委 員 富田 陽子	×
委 員 福村 一成	×	委 員 中井 宏	○	委 員 森口 周二	×
委 員 小川 和也	○	委 員 森 淳子	○	委 員 梶取 真一	○
委 員 金澤 伸一	×	委 員 川久保 昌平	○	委 員 持田 文弘	○
ワザバー 李 圭太	×	ワザバー 清木 隆文	○	ワザバー 川井 康右	×
ワザバー 荒瀬 義則	×			事務局 内藤 千愛	○

《報告・確認事項》

1. 議事録担当者……(別紙-1)

- ・梶取委員が担当することになった。

2. 前回議事録(6/7)の確認……(別紙-2)

- ・橋委員長より説明があった。議事録の内容について承認された。

3. 理事会(6/13・6/20・7/19)報告……(別紙-3)

- ・出版企画委員会の関連する部分について、事務局から説明があった。
- ・「建設工事と地形・地質」改訂委員会について承認された。
- ・旅費の支給方法が変更予定。口座振り込みになる予定。
- ・「杭基礎のトラブルとその対策」の出版計画の変更について報告し、承認された。

4. 公益出版部(出版)関係収支報告……(別紙-4) (添付資料-1)

- ・「新指針に対応した H25 年度版土と基礎の設計計算演習」は、最終年度のため、赤字となっている。他の委員会も最終年度は赤字になると思われるが、編集委員会費全体で赤字にならないように努める。
- ・「役立つ!! 地盤リスクの知識」は、冊数としては一番売れた。ただし、単価が低いため、売上金額としては緩やかな上昇となっている。

5. 各編集委員会および出版作業進捗状況……(別紙-5)

- ・「河川構造物の調査・設計から施工まで」は、李委員が欠席のため、進捗状況を事務局が確認する。
- ・「落石対策工の設計法と計算例」は、80%の仕上がり状況で、今後書式等の統一が必要。何ページが妥当か確認したい。→ページ制限は特くない。
- ・「建設計画と地質・地形」は、出版企画書が7月の理事会で承認され、コアメンバーが決まった。
- ・「現場における地盤調査法の基本」は、やや遅れ気味の状況。図の修正等で、少し予算が嵩むこともあるかもしれない。ページ数も増えるため、ほぼできあがった時点で、出版にかかる見積もりを取り直した方が良い。
- ・「杭基礎のトラブルとその対策」は、計画変更をしたので、予定通り。書籍のサイズについて、事務局に問合せがあった。
- ・「土と基礎の設計計算演習」は、ほぼできている状況。平均して7～8割程度。トレースが多いが、学生アルバイトで対応。1～2ヶ月程度ずれ込む可能性もあるが、年度内には完了する。

6. その他

*技術普及委員会(7/31)報告……(別紙-6) (添付資料-2)

- ・出版物を利用した講習会について、テキスト利用される予定の出版物の在庫不足の問題が生じ始めているということが事務局から指摘された。増刷の予算は150万と限りがあるため、必要な冊数は在庫と費用を考慮して決定が必要。
- ・土の締固め講習会は、11月28日で間違いないか?→間違いない。
- ・関東支部からの依頼として、支部で講習会等を開催したときに、共催の団体会員にも、地盤工学会会員価格で書籍を販売できないかという提案があった。

→継続審議として、今後検討する。部会に上げるかは保留。

*出版アンケート集計結果……(別紙-7)

- ・アンケート結果は、一定数が集まってから公表する。
- ・メールマガジンでアンケートを募る。

《審議事項》

1. 25年度ワーキンググループ活動案について……(別紙-8) (添付資料-3)

○出版企画WG活動案について

- ・新刊本の企画：出版企画委員会で企画、研究委員会にアンケート等、会員・非会員からアンケート等、の実施。研究委員会に配布する場合は、調査部に断りを入れる。
- ・編集マニュアルの整備
- ・WGの中で、一人に作業が集中しないように、作業を割り振ること。

○販売促進WG活動案について

- ・販促活動：販促チラシの作成、キャンペーン依頼 (→丸善)、その他
- ・電子出版導入の準備：丸善に説明してもらうことで調整中。電子出版が可能な著作権契約等の検討を行う。
- ・セットでお得の見直し：冊数としては多いが、価格を下げて販売しているため、金額として大きくない。セットにしなくても売れる本がセットで売れ、売りたい本がセットで売れないなどの問題があるため、どんなセットが良いかなど、継続して検討する。
- ・川井式の検討：予測と実績の比較など

2. 電子出版について (進捗状況等) ……(別紙-9)

- ・丸善から販売システム、メリット等の説明をしてもらう。
- ・著作権について：丸善によると、正論的には転載許諾が必要だが、実態としては許可を取っていないことが多いのが実情。新刊本については、執筆許諾の書類に一文を加えれば良いので問題ない。既刊本の扱いが難しい。
- ・無料で公開した場合、著作権の問題が発生しないのでは…。会員向けサービスとして、絶版になった書籍を無料で配布するのはどうか、と橘幹事長より提案があった。問題点等を取りまとめ、部会に上げる。
- ・杉本幹事が選出し、事務局に知らせる。事務局から印刷屋にPDF化にかかる費用の見積もりを取る。

3. 「杭基礎のトラブルとその対策」改訂本のサイズとカテゴリーについて……(別紙-10)

- ・現行の事例を転載する場合、転載許諾が必要になる。文章の打ち込み等も必要なため、出版企画委員会として、サイズの変更 (B4→A4)、実務シリーズの変更を推奨したいので、編集委員会で検討していただく。

4. 書籍カテゴリーの再編について……(別紙-11)

- ・ひとまず、トラブルシリーズの新刊は出さないこととする。
- ・再編については、今後検討を継続する。

5. 既刊本見直し評価について……(別紙-12)

- ・「斜面の安定・変形解析入門」：継続販売とする。増刷は行うが、冊数はメール審議。
- ・「設計用地盤定数の決め方・岩盤編」：継続販売とする。ただし、赤本・青本等の参照ページ等の変更が必要。増刷の対象。
- ・「地盤調査・土質試験結果の解釈と適用例」：出版企画委員会として、「改訂」の必要があるように思える。内容について、見直し委員の金沢委員に再度確認する。また在庫数を167冊から25冊に訂正。また、出版企画WGで、ここ数年で改訂と判断された書籍のリストアップし、実際に編集委員会を立ち上げる書籍を検討する。
- ・「環境地盤工学入門」：教科書採用している大学に、事務局から今後の採用予定について問い合わせる。増刷対象と同時に改訂の対象 (早急ではない) である。

6. 「既刊本見直しに関する要領」の見直しについて……(別紙-13)

- ・既刊本見直しに関する要領に記載されていることと実態に大きな乖離が見られるため、今後、検討が必要。
- ・長期滞留物出版物の処分に関する要領について、今後、検討が必要と思われる。

7. その他

- ・講習会でテキスト使用する「地盤工学入門」、「土の締固め」、および地盤品質判定士で参考図書に指定されている「液状化工法」の増刷数はメール審議する。

- ・次回の開催は、10月23日（水）14時～17時とする。
- ・丸善に、電子出版に関するデモを打診する。

【次回委員会開催日：平成25年10月23日（水）14：00-17：00】